カスタネット通信

カスタネット

2022年2月号

　2021年のカスタネット通信では、認定言語聴覚士講習会(聴覚障害領域)やことばの教室、聴こえの教室の先生方との交流など、オギジビ言語聴覚士のクリニック外での活動をいくつか紹介しました。2月号では、昨年1年間のクリニック内での活動、つまりどのような方とお会いしたかということについてご紹介したいと思います。

2021年の振り返り

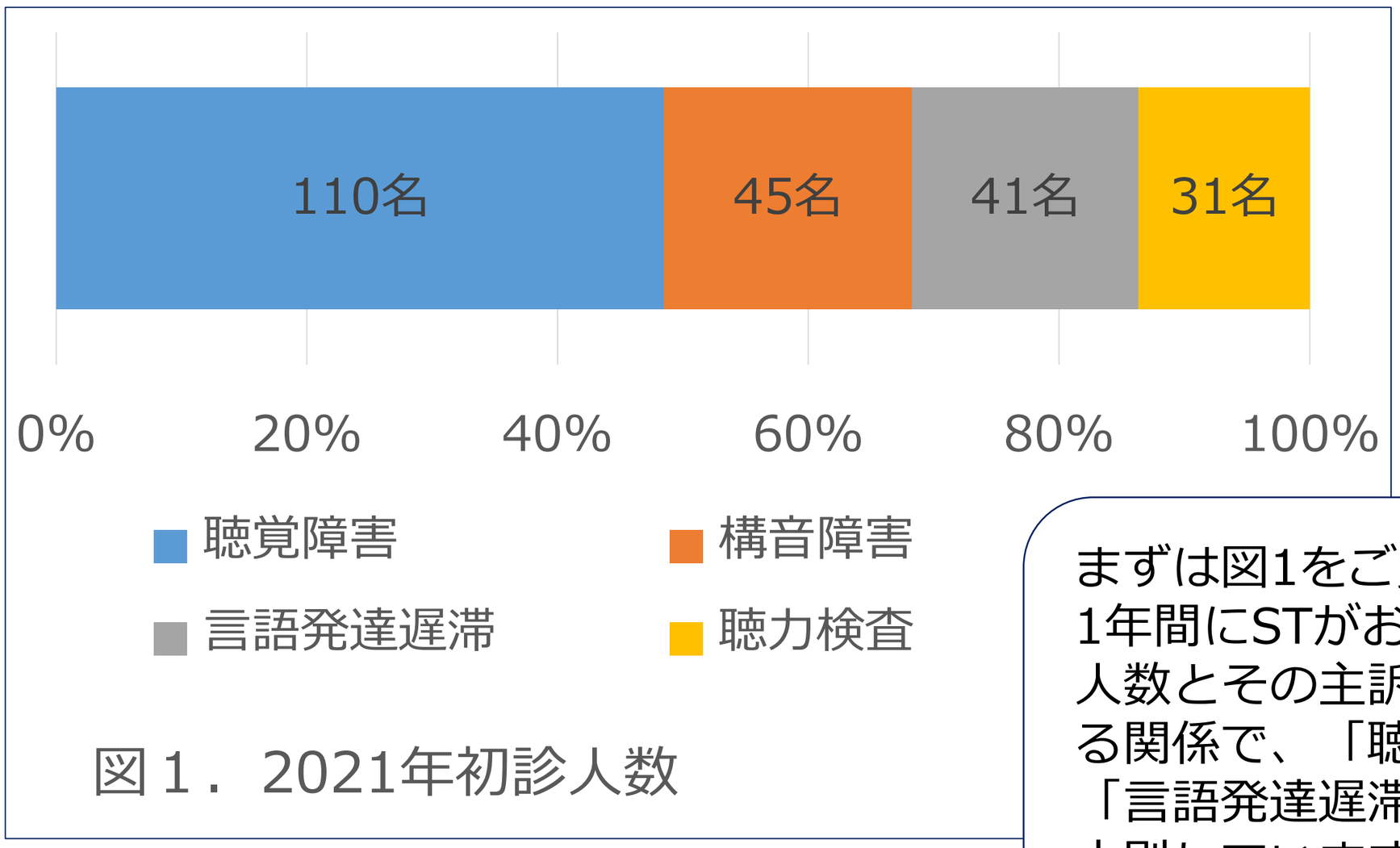

図１．2021年初診人数

総数は227名でした！

まずは図1をご覧ください。2021年の1年間にSTがお会いした初診の方の人数とその主訴の内訳です。統計をとる関係で、「聴覚障害」「構音障害」「言語発達遅滞」「聴力検査」の4つに大別しています。

「聴覚障害」を主訴に受診された方のほとんどがは”耳が聞こえにくい“、”耳が遠い“という”難聴の状態”の方です。ごく少数ではありますが、耳鳴りの方や、『賑やかな場所だと音は聞こえるけど、何を言われているか分からない』という聴覚情報処理障害(APD)が疑われる方もこの中に含めました。

「構音障害」は『おさかながおちゃかなになる』、『がっこうがだっとうになる』など、正しい音で発音ができないお子さん達です。昨年は春頃に構音訓練(発音の練習)を希望される方が多くいらっしゃったため、夏以降は訓練を開始できない状態でした。今年も同じ様に構音訓練の枠の空き状況をみながら、適宜訓練を始める、ということになるのではないかと考えます。

「言語発達遅滞」は『ことばの発達が遅い』、『親が言ったことは理解しているが、ことばを話さない』といったお子さん達です。ことばの理解・表出の発達だけではなく、他者との関わり方、おもちゃでの遊び方なども見せていただき、お子さんの発達の状況にあった介入方法を考えます。

ここに挙げた**「聴力検査」**は大人と同じ検査が未だできない、お子さん達用の聴力検査です。DVDやビー玉などを使って聞こえの評価を行います。

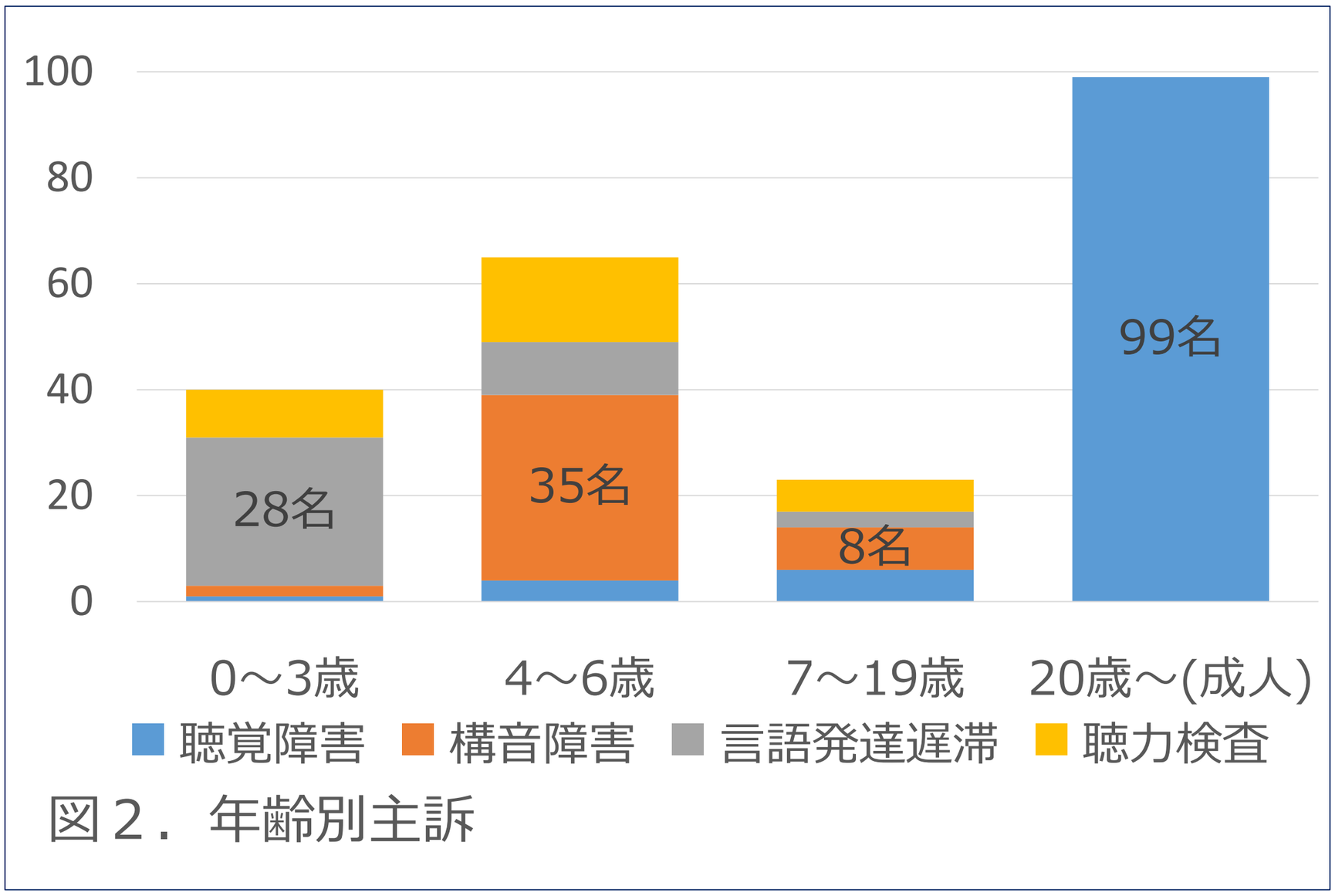

図２．年齢別主訴

その他は座間市、大和市、海老名市などです。

図2は年齢別に主訴をまとめました。それぞれ人数が最多のところに数字を入れました。

3歳以下では健診でことばの遅れを指摘されたお子さん、4～6歳になると発音の誤りを主訴に受診される方が多くなりました。7～19歳は人数も少ないのですが、主訴も様々でした。おとなの方は全員聞こえについての相談でした。

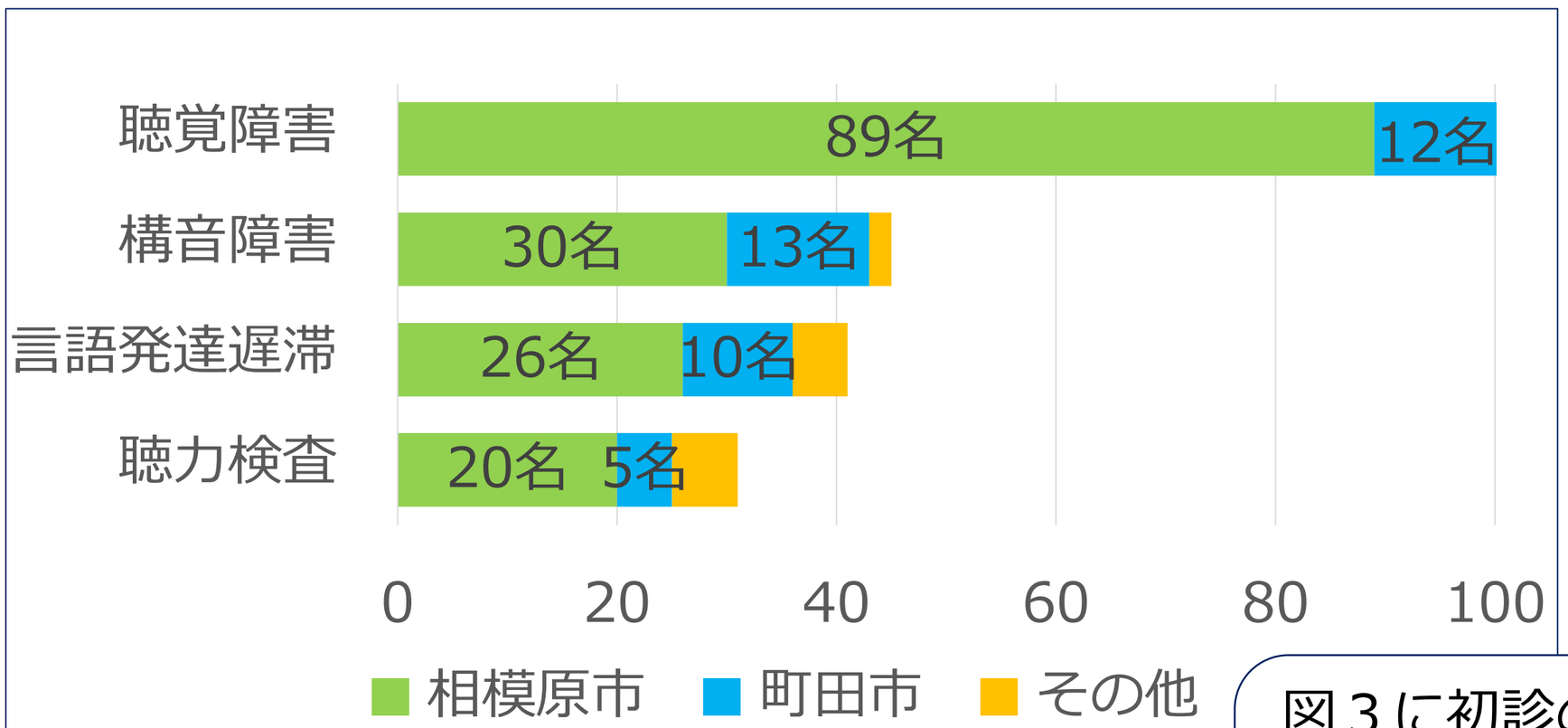

図3．初診の方の居住地

その他は座間市、大和市、海老名市などです。

図３に初診の方の居住地を表しました。オギジビがある相模原市はもちろんのこと、隣接する町田市からもたくさん受診されています。

聴覚障害、構音障害、言語発達遅滞、聴力検査を主訴にいらした方に対し、言語聴覚士が実際何をするかについては、2022年のカスタネット通信で順次紹介していきたいと考えています！

子どもを見つめるシゴト

オギジビのマスコット犬、おおちゃん

福音館書店の「母の友」(右側の小さい本棚の中に入っています)の『子どもを見つめるシゴト』というコーナーの取材を受けました。保育士、ピアノの先生などその仕事をイメージし易かったり、友人・知人にその職業を選んだ人がいる職業から、哺乳びんの開発者、弁護士などなかなか出会うことが無い職業まで色々なカタチで子どもと関わり合う職業が紹介されるコーナーです。子どもを見つめる言語聴覚士、ぜひお読みください。

おぎはら耳鼻咽喉科
OGIHARA E.N.T Clinic